

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年2月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1571500543		
法人名	株式会社 パートナー		
事業所名	グループホーム ゆうなぎ		
所在地	新潟県糸魚川市桜木町45-1 (電話) 025-566-5755		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	10月30日

【情報提供票より】 19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人、非常勤 2人、常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 建ての	1 階 ~	2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54000 円	その他の経費(月額)	15000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日あたり	900 円		

(4) 利用者の概要 (19年 9月現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真部外科医院・室川医院・高島歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この地域の認知症高齢者の生活を支援するため、管理者の熱い思いから開設したグループホームである。「地域の中で」「ゆったりと」「自分らしく」生活できるように支援することを理念として、家庭的な雰囲気の中で入居者・職員が暮らしている。地域のまつりや行事には積極的に参加して楽しみを増やし、また、クッキング教室や救急法講習会・お茶会を開催したり、地域版広報誌に介護一口メモを掲載する等、地域にホーム機能を還元している。デイサービスセンターが併設されており、地域の人たちが集まるデイサービスと日常的に交流が図られている。ホームの周りには、スーパーや役場・児童館・図書館・交番等があり、生活環境に恵まれている。また、山あり海あり、変化に富んだ生活が楽しめる環境である。職員は、利用者一人ひとりの個性に合わせて生活できるように配慮しており、利用者の表情は生き生きとしている。開設して3年目を迎え、これからますますの成長が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を積極的に活用し、改善に取り組んでいる。「地域とのかかわり」として、ホームの地域向け広報誌を季節ごとに回覧することにより、地域の住民からホームの理解を深めていただいたり、ホームの行事への参加してもらえよう呼びかけている。利用者は地域の行事にも積極的にかけるようになった。地域還元事業として、料理教室の継続と高齢者の交通安全教室なども提案している。「健康診断の支援」では、利用者が、定期受診とは別に年1回健康診断を受けられるよう支援している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員に自己評価表を配り、各自が意見を書き、それを管理者や計画作成者がまとめており、職員のサービス評価に対する認識が深まっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、民生委員や町内会長・地域住民から参加してもらっている。運営推進会議では、ホームの運営状況や外部評価の結果等話し合いを行い、サービスの向上に役立っている。また、災害時の避難所を確認したり、行事の案内をするなど、積極的に活用している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月広報誌「がえす」を発行してホームの様子を家族に知らせると共に、紙面の一部を利用して利用者一人ひとりの日頃の様子を手書きで書き、それぞれの家族に知らせている。金銭の収支についても領収書を提示して確認してもらっている。家族の面会が多く、面会の都度家族から意見を聞くようにしている。また、運営推進会議や年2回開催する家族会でも家族の意見を聞いている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会にも加入し、地域のまつりや敬老会等の行事に積極的に参加している。また、ホーム内でお茶会を開催して地域の人を招いたり、料理教室や救急法講習会を開くなどしてホームの機能を地域に還元している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念	『「地域の中で」「ゆったりと」「自分らしく」生活できるように支援します。』という理念には、管理者の思いが込められていて、わかり易く、覚え易い。「どんなにわがままを言っていただいてもいい、やりたい事を言ってください、ホームに閉じこもらず地域の中に出て行きましょう。」というのが管理者の言葉である。		
	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、会議やミーティング等で理念について話し合い、実践に努めている。また、食堂の壁に理念を掲げ、職員や来訪者に意識づけている。		
	2-2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる		
2. 地域との支えあい					
	3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
	5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	圏域を超えての入居希望があった時は市とのやり取りも行なわれてきたが、それ以外の情報交換はされていない。また、地域包括支援センターとの関係も希薄である。		市の担当者や地域包括支援センターは、地域密着型としてのサービスを展開していく上で欠かせない存在であり、よき理解者である。運営推進会議に出席してもらいホームの様子を伝えたり、日頃から連絡や相談をするなどして、考え方や実態を共有していくことが求められる。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待に関する研修に参加し、学ぶ機会を得ているが、全職員に対しての伝達はまだしていない。		潜在する危険のある高齢者虐待については、高齢者虐待関連法を事業所内で理解し、虐待行為を発見したときの対応方法等についての話し合いの場を持つよう、取り組みをお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報誌「がえです」を発行し、ホームの様子を家族に知らせると共に、紙面の一部を利用して利用者一人ひとりの日頃の様子を手書きし、それぞれの家族に知らせている。また、金銭の収支についても領収書を提示して確認してもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、面会の都度家族から意見を聞くようにしている。また、運営推進会議や年2回開催する家族会でも家族の意見を聞き、運営に反映させている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、必ず職員の意見を聞いている。職員も積極的に発言している。また、会議の前に、連絡ノートに話したい議題を書いてもらい、意見を出しやすくしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設3年目となるが、異動や離職は最小限にとどめている。なお、異動は1階のデイサービスと2階のグループホーム間で行われているために、異動があった場合でもいつでも顔をあわせることができ、利用者との馴染みの関係を継続できる。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	開設時、職員で話し合いマニュアルを作成した。その後も見直しは行われている。感染症や食中毒、身体ケアについてのマニュアル、緊急時対応や離所対応、事故対応、個人情報保護、プライバシー、苦情対応、倫理規定等々のマニュアルが揃っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会は2ヶ月に1回、年間計画を立て実施しているが、職員のアンケート結果から内容を変更するなど、職員の学習意欲を大切にしている。また、外部研修についても、職員の希望を取り入れ、参加してもらっている。研修後は他の職員に報告する機会を設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した時に同業者との情報交換等を行っている。また、近隣のグループホームとも情報交換はしているが、勉強会や相互訪問をするまでには至っていない。		日々のサービスや職員教育に役立つ実践的な交流や連携ができるように地域の同業者とネットワークを作ったり、勉強会や相互訪問等の活動を展開することを望みたい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員の意見を聞く機会を持ったり、職員同士の人間関係を把握するように努めている。また、研修等に複数の職員を派遣して職員同士の親睦を図ったり、同業者との情報交換を行なっている。職員休憩室も完備されている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を決めていただく前に、当ホームだけでなく、他のホームの見学も勤めて、納得したうえで決めていただくようにしている。また、入居前に、職員が他の利用者を連れて対象者の自宅を訪問する事もあり、馴染みながら利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理場面や野菜作りなど、利用者と共に実施し、支え合う関係の中で行っている。生活場面では一人ひとりの利用者が好んで行なえる役割を持っており、職員と共に過ごし支えあう関係が築かれている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護場面で家族以外では対応が難しい場合には、家族の協力を得て共に利用者の生活を支えるなど、職員だけが抱え込んでしまうのではなく、家族と共に本人を支えあう関係が出来ている。また、クッキング教室の講師を家族からしてもらうこともある。		

外部	自己	項 目	(実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者の意向を聞いて日課を決めている。散歩やドライブが好きな人、本を読むのが好きな人、料理が好きな人、字を書くことが上手な人、畑仕事が好き人それぞれの好みを把握しながらケアに活かしており、利用者の表情は生き生きしている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの思いや生活歴を本人や家族・近所の人にも聞いて把握し、個別支援に生かしている。全ての職員がそれぞれの利用者をよく把握しているが、記録として残っていない。		生活歴や馴染みの暮らし方を把握することは、自分らしく暮らしていくことを支援するために必要な情報である。職員それぞれが知っていることはもちろんであるが、記録として整備することを望みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聞き、MDS方式アセスメントの課題分析も取り入れながら、サービス担当者会議を実施して意見の調整をした上で介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回サービス担当者会議を開催し、6ヶ月に1回介護計画を見直しているが、状態が変化したときはそのつど見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの希望の外出を支援したり、医療面でも、往診してくれる医師もあり、利用者の状況や要望に応じて支援している。開設して3年経過していないので、共用型の通所や短期入所の取り組みはまだできないが、地域の要望もあり、将来取り組みたいとの意気込みを持っている。その前段階として、地域の方を月1回お茶会にお呼びしてつながりを作っている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの利用者にかかりつけ医が決まっており、月1回往診や受診をしてもらっている。疾患によっては、大きな病院で検査を受ける入居者もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	要望があれば最後まで看取りたいとの思いはある。話し合いの必要性は感じているが、職員間での話し合いや方針の共有はまだ行われていない。		利用者が元気で意思確認ができる時に、本人や家族から意向を聞いたり、職員体制や医療との連携について日ごろから関係者間での話し合いをし、方針を共有することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や薬の介助はプライバシーにかかわることなので、他の利用者にはわからないよう声かけをしたり、薬もそっと渡すなど対応に注意している。ケース記録等は鍵のかかる棚に収納し、パソコンは入り口等から見えない位置に置くなど工夫している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの好みを把握しており、働きかけたり、その日の希望を取り入れて、気軽に外出したりしている。また、一人ひとり得意なところで役割があり、日々その人らしい暮らしを支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の得意な人が食事作りを手伝ったり、盛り付けをしたりしている。利用者と職員と一緒に会話しながら食事をし、食後の片付けも楽しく行っている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居されたときに、排泄パターンをしっかりと把握し、排泄の支援に生かしている。失敗を減らすための検討もしている。トイレ誘導する時は、プライバシーに配慮して他の利用者にはわからないように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人での入浴が良い人は一人で、友人と一緒に入りたい人はデイサービスの大きな風呂を使い、入浴を楽しんでいる。入浴が嫌いな方には、家族からも声をかけてもらって入浴してもらうなど、できるだけ不快な思いをせずに入浴できる様に配慮している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、畑仕事、読書、ドライブなどの好きなことや、字がうまい人、接待がうまい人などそれぞれ生活の中で得意なことを生かして活躍してもらったり、買い物や食事に出かけたり、地域の行事に出かけたりと、楽しみごとを多く持てるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの行きたいところを聞いて、親戚の家や住んでいた家、茶屋、レストラン、買い物、図書館、児童館等積極的に外出を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、毎月、自覚しない身体拘束が行われていないか、ケアの振り返りをしている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠はしていない。いつでも行きたいところに行けるという安心感が利用者にはある。利用者が一人で出かけても、近所の人たちに連絡をとって見つけてもらう体制があったり、すぐに呼び戻さずに職員が後からついて行くなど、本人のペースや状況に合わせた支援を行っている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応や行方不明の対応などマニュアルを作成し、対応を決めている。事故報告やヒヤリハットに関する記録はきちんと整理され、対応策を具体的に検討している。また、火災を防ぐため、ガスコンロは使わず、IHヒーターを採用している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	急変時の対応については定期的に学習会を開催している。消防署から来ていただき、地域の住民も参加して救急法の講習会を開催したこともある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回以上、入居者とともに防災訓練を実施している。運営推進協議会では地域の避難場所についても確認したところである。		
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	デイサービスの栄養士や家族にも栄養士がいるので、献立等アドバイスを受けている。健康状態により、食事形態を変えたりしている。水分を十分とれるよう、お茶やコーヒーなどが自由に飲めるように用意されており、職員からの働きかけも行なっている。		

外部	自己	項目	(実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木目調の温かみのある床、柔らかい雰囲気の照明、空気調節や明かり取り窓の機能もあるトップライトなどの設備で、居心地の良い空間になっている。また、テレビのある和室や廊下のそこここに何気なく置かれた長いすなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には思い思いの家具が持ち込まれたり、好みの飾り付けがされていて、居心地よく個性的な部屋づくりがなされている。</p>		